

尿路結石症診療ガイドライン第2版(2013)

Clinical guideline for urinary stones (2nd edition)

医療法人仁友会北彩都病院泌尿器科・尿路結石治療センター長

Satoshi Yamaguchi 山口 聡

Key Words

尿酸結石, シュウ酸カルシウム結石,
酸性尿, 尿酸生成抑制剤,
尿アルカリ化薬, 栄養食事指導

Summary

尿路結石症の治療や再発防止の対策上、高尿酸血症をはじめとする尿酸代謝は非常に重要である。高尿酸血症や痛風に関わる尿路結石は、尿酸結石だけではなく、最も頻度が高いシュウ酸カルシウム結石もあるため、尿路結石症診療ガイドライン第2版においても、尿酸代謝に関する記載が多くなされている。尿酸代謝が関与する尿路結石の危険因子として、尿量低下、持続する酸性尿や尿中尿酸排泄量の増加が強調されているが、これらのスクリーニングとして高尿酸血症の把握は必須である。疫学的には、肥満や生活習慣病などとの関係が明らかになりつつあり、尿路結石の再発予防が直接的にこれらの病態の改善にも繋がる。そのため、従来から行われている飲水指導、尿酸生成抑制薬や尿アルカリ化薬を中心とした薬物療法、栄養食事指導がますます重要となっている。尿酸代謝に関する遺伝的素因についての研究は、わが国が世界をリードしており、今後、尿路結石との関係解明への応用が期待される。

はじめに

高尿酸血症や痛風患者における尿路管理のうち、尿路結石の診断や治療、および発生の防止は極めて重要である。尿路管理の重要性は、初版の高尿酸血症・痛風の診療ガイドライン(2002年)において初めて取り上げられ、第2版の同ガイドライン(2009年)では、「高尿酸血症のリスク」と「合併症・併発症を有する患者の治療」の項に、尿路結石と高尿酸血症の関係やその取扱いが具体的に解説された。今回発行された第3版の同ガイドライン(2018年)ではこれらを踏襲し、高尿酸血症・痛風の診療マニュアルの項に、高尿酸血症のリスクとして尿路結石が、また治療としても尿路結石が、それぞれ述べられている。

尿酸代謝に関わる尿路結石のうち、尿酸結石が直接的な関係があるが、上部尿路(腎・尿管)結石のなかで最も頻度が高いシュウ酸カルシウム結石の形成にも深く関係している。尿路結石症診療ガイドラインは2002年に初版¹⁾が、2013年に第2版²⁾が公表され、尿路結石症の立場から高尿酸血症などの尿酸代謝についての多くの記載がある。本項では、尿路結石症診療ガイドラインにおける高尿酸血症の位置づけについて解説したい。